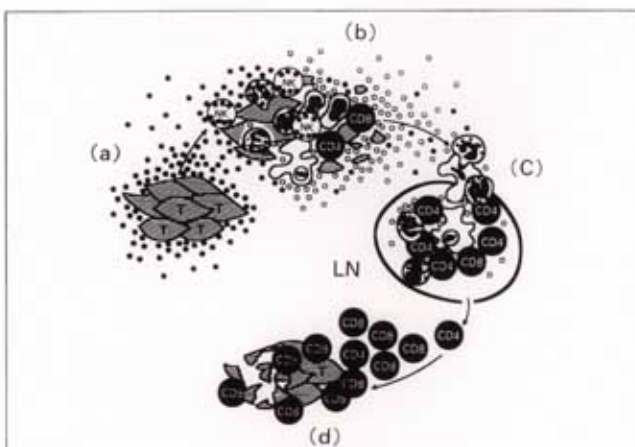


Clinical Research Ward

腎がんに対する遺伝子治療を 倫理審査委員会へ申請

米国を中心に予想をはるかに超える勢いで遺伝子治療／遺伝子マーキングの臨床研究が進んでいます。1994年9月現在、米国NIHの組換えDNA諮問委員会(RAC)で認可されたプロトコールは81と急増し、実際に遺伝子の投与を受けた患者数は既に200人を突破しています。

一方、我が国においても漸くガイドラインが整備され、遺伝子治療に積極的に取り組む動きが活発になってきました。医科研病院でも、米国Somatix社との共同研究として、多施設による腎がんに対する遺伝子治療臨床研究の準備が共通プロトコール検討委員会(委員長:浅野病院長)において進められてきました。医科研病院以外には、国立がんセンター、順天堂大、筑波大が参加し、癌研も研究面でサポートします。そして本年7月に【転移性腎細胞癌患者を対象とするGM-CSF遺伝子導入自己複製能喪失自家腫瘍細胞接種に関する多施設共同臨床第1相試験】(総括責任者:浅野病院長、主任研究者:谷講師)が医科研の倫理審査委員会に提出されました。方法は、進行性腎がん患者から腎臓を摘出し、がん細胞をSomatix社へ空輸します。そこでがん細胞にGM-CSF遺伝子が導入され、さらに放射線照射したものが患者のいる施設に返送されます。これを患者の皮下に



サイトカイン遺伝子導入による癌に対する免疫遺伝子治療

いわゆる“がんワクチン”として接種するというもので、腎がんに対する免疫反応が惹起されることを期待したものです。

多施設共同研究にしたことについて浅野病院長は、「遺伝子治療はできるだけオープンに進めたほうが社会的に受け入れられ易く、これが望ましい形だ」と語っています。

この遺伝子治療が実際にスタートするまでにはまだ紆余曲折がありそうですが、先端医療を担う立場にある医科研病院がこの分野の牽引車になることを期待したいと思います。(小澤敬也)

VISITS

学友会セミナー

日時	演者		演題
6月14日	Dr. Steve Lynch	Princess Alexandra Hospital	ブリスベンにおける肝移植の現状と展望
6月17日	福田 穰 教授	東京大学医学研究所 細胞生物化学研究部	細胞の分化と癌化における細胞表面糖鎖の役割
6月23日	川上 敏明 医学博士	La Jolla Institute for Allergy and Immunology	PHドメインの機能とマスト細胞の活性化
7月4日	西條 幸男 博士	東京都臨床医学総合研究所	未分化細胞に特異的な転写因子Oct-3の解析
7月4日	Dr. H. Bartsch	Deutsches Krebsforschungszentrum	DNA adducts as critical lesions in carcinogenesis: Recent low level estimations in exposed humans and mechanisms
7月12日	Dr. Franz Oesch	Institute of Toxicology University of Mainz	Role of individual enzymes in the control of genotoxic carcinogens
7月13日	Dr. W. L. Chan	Department of Virology Medical College of St Bartholomew's Hospital	AIDS Vaccine Development Using the SIV Macaque Model
7月15日	飯塚 成志 氏	University of Colorado Health Sciences Center	Cap-Dependent and Cap-Independent Translation of mRNAs in Cell-Free Extracts Prepared from Saccharomyces cerevisiae
7月19日	Dr. Joseph Shlomai	Hebrew University of Jerusalem	A telomere-like sequence as a regulatory element at the origin of replication of trypanosomal kinetoplast DNA
7月20日	宮園 浩平 博士	Ludwig Institute for Cancer Research (Sweden)	Multiple receptors for TGF- β , activin and bone morphogenetic proteins
7月22日	佐辺 寿孝 博士	京都大学ウイルス研究所	細胞基質間接着と蛋白質チロシンリン酸化
7月25日	Dr. Neal S. Young	Chief, Hematology Branch; National Heart, Lung, and Blood Institute; National Institutes of Health	Recent Advances in the Study of Parvoviruses
8月1日	Dr. Heiner Niemann	Director, Federal Center for Virus Diseases of Animals	Clostridial neurotoxins: New tools to study secretion
8月4日	Dr. Enrico Garattini	Molecular Biology Unit Centro Catullo e Daniela Borgomainerio	Leukocyte alkaline phosphatase, a marker for the terminal differentiation of the acute promyelocyte leukemia blast. Molecular mechanisms of induction.
8月9日	百枝 幹雄 博士	東京大学産婦人科	B19パルボウイルスの転写調節—特に転写調節因子YY1の意義について
8月9日	富村 耕一 博士	名古屋大学第一内科	パルボウイルス (B19, AAV) とその遺伝子治療への応用の可能性
8月12日	Dr. Cecilia Cheng	Staff Investigator Aaron Diamond AIDS Research Center	Pathogenesis of Infection by the Human Immunodeficiency Virus